

## IV 花 き

### 現 況

#### 1 キク

奥越地区では、2月中旬現在で積雪がなく、秋植えキクの冬至芽の芽立ちが3月中下旬並みで、1m<sup>2</sup>当たりの芽立ち本数が「精はなこ」で215本、「精かのか」で84本、「奥越の舞」で165本であった（2月13日調査）。

病害虫として、ネキリムシの食害が始まり、例年より半月以上早い発生である。

坂井地区の秋植えキクでは、冬至芽の生育が例年より早く、3～10cm程度伸長している。病害虫として、葉にアザミウマ類の食害痕があるが、害虫自体は活動していない。

福井地区では、親株にアブラムシ類が少発生している。

丹生地区では、親株にアブラムシ類は少～中発生している。

南越地区では、親株に白さび病が少～多発生している。

二州、若狭地区の春植え8月咲きキクは親株管理中である。

病害虫として、一部のハウスでアザミウマ類、アブラムシ類が少～中発生している。

#### 2 スイセン

スイセンの出荷ピークは12月上旬となり、年内までの出荷量は68万本（昨年81万本）と昨年より少なめであった。年明け以降は8万本となり、昨年の21万本より少なくなった。最終荷受けは1月30日（昨年2月26日）で、総出荷量は76万本（昨年2月26日最終荷受けで102万本）であり、昨年より少なかった。

#### 3 ユ リ

坂井市春江町で、オリエンタル系は加温、二重ハウス栽培であったが、年末に開花せず、切残しが見られる。LAユリも定植が遅れ（10月上旬）、「エルディーボ」で草丈38cm、4.5輪で品質も悪く、出荷不能であった。

#### 4 トルコギキョウ

あわら市で、ロベナシリーズで出荷終了、草丈は84cmであった。病害虫として、一部でオオタバコガの食害痕が見られた。

越前市では、9月中旬播種で11月中旬に定植された。「ボヤージュグリーン」、「フルフル」等でビニールトンネル被覆を行っている。草丈5cm程度、展開葉は8対（昨年2cm程度で5対）で昨年より生育は早め。2度切り栽培のトルコギキョウは、2月19日調査で草丈3cm（昨年2月21日調査で2cm）、分枝数も2本程度（昨年3本程度）となっている。

## 5 ストック

あわら市丘陵地のストックは草丈76cmで出荷中である。2月は1日30ケース、週1回の出荷で、2月で出荷が終了する見込みである。一部ハウスで3月出し用のものが残っている。

越前市の8月中下旬に直播された「カルテット」シリーズは2月19日調査（昨年2月21日）で8月20日頃から8月末に直播された品種、個体で収穫終了である（昨年出荷終盤）。9月10日頃に直播された品種、個体は草丈95cm、ピンチ済みで収穫はじめ、遅い品種は蕾径が15mm程度で下旬ごろからの収穫とみられる。

若狭地区では10月中旬播種のものが草丈70～75cmで開花し始めた。

## 6 ウメ花枝

平成30年度のウメ花枝の出荷本数は117万本（昨年度139.1万本）であった。

## 7 その他

あわら市のキンギョソウ「アスリートレッド」が草丈118cmで収穫終了、「アスリートイエロー」が草丈138cmで収穫終了。

病害虫として、一部でアブラムシ類が発生している。

## 対 策

### 1 秋植え夏ギクの春先管理

- (1) 古い茎葉は病害虫の一次発生源となるので、消雪後の出芽前後に地際部から除去する。特に、黒さび病の罹病が認められる品種は、除去後の古枝を肥料袋等で回収し、圃場外で速やかに処分する。
- (2) 防霜対策として、出芽してきたシュートを保護するために不織布でべた掛けする。べた掛けは開花も早まる可能性があるため、よく畝を観察し、1、2割のシュートがのぞいた時を見計らって行う。
- (3) 暮れに施した硝酸態の肥料は、ほとんど残っていないため、基準量をしっかりと施用する。
- (4) 春肥施用後、畝溝の溝さらえを兼ねて2～3 cmの土寄せを行う。

### 2 春植え夏秋ギクの採穂と挿し芽

- (1) 採穂の1～2日前に親株の病害虫防除を徹底する。芽の伸長初期には、保護殺菌剤の散布により、黒斑病や褐斑病、白さび病防除を徹底する。
- (2) 採穂時間はしおれやすいため、早朝に取るのがよい。
- (3) 摘心した親株から採穂する。挿し穂は手で摘み取り、展開葉3～4枚をつけ、長さ5～7 cmに調整する。
- (4) 挿し芽間隔は葉と葉がわずかに触れ合う程度とし、深さは1.5～2 cmとする。
- (5) 軽い挿し芽用土は作業性がよいため、パーライト5+クンタン5、パーライト5+ピートモス5、山砂7+ピートモス3などを用いる。一部の地域では、モミガラ単用で利用されている。
- (6) 挿し穂は冷蔵すると挿し芽後の生育がそろそろ。冷蔵する場合は、発泡スチロールの箱に、挿し穂の切り口を下にして1列に並べて詰め込み、5℃の冷蔵庫に7～10日、2℃で2週間まで冷蔵できる。

### 3 春植え夏秋ギクの定植準備

- (1) 春先の圃場排水を行い、旧盆ギクは4月15日までに定植できるよう作業を進める。
- (2) 肥料は有機質肥料を主体に窒素成分で中輪ギク3 kg/a標準とし、この内1～2割を、そさい5号等の速効性化学肥料とする。
- (3) 定植圃場の耕耘は、土壌水分が適切な状態の時にロータリーの刃の回転をあげて行う。

### 4 トルコギキョウの定植準備と定植

- (1) 圃場は土が柔らかく、排水性が良いことに加えて、20cm以上の高畦とする。
- (2) 基肥はa当りF<sub>1</sub>品種で窒素成分を1～1.3 kg、リン酸は1.5 kg、カリは2 kg程度施す。

- (3) 苗が根づまりしたり老化したりしないように、本葉 1～2 対頃を目安に早植えする。  
15 cm×15 cm の 6 条植えとする。定植時に直根を切ると生育が悪くなるので注意する。
- (4) 土壌酸度(pH)は非常に重要であるので、必ず測定して 6.5 程度に矯正する。
- (5) 定植 3～4 日前に、植付け場所に十分灌水する。また、育苗箱を定植場所に持ち込み順化を行う。育苗箱に弁当肥（液肥 500 倍）を施しておく。
- (6) 定植後は液肥 1000 倍を灌水がわりに施す。その後 1 か月間は週 1 回液肥を施す。
- (7) 花のボリュームを出すため、花芽分化が始まる本葉 8 対（草丈が 15～20 cm）頃までは適宜、水分や肥料を十分に与える。
- (8) 二度切り栽培は草丈が 10～20 cm に達した時点で、生育が良い枝を 2 本程度残してその他の枝を取り除く。

## 5 スイセンの施肥管理

養成中のスイセン球根を肥大させるため、3月上旬までにそさい5号を10a当たり40kg施用する（窒素成分量6kg/10a）。

アメダスのデータ

注)

10年平均：10年間の平均値。

3月～12月まではH19～H28、1月と2月はH20～H29までの平均値

H29-H30：前年のデータ。

3月～12月まではH29、1月と2月はH30のデータ

H30-H31：今年のデータ

3月～12月まではH30、1月と2月はH31のデータ



